

指導計画作成について（手順と考え方・留意事項）

【 手 順 】

(1) 3 学年間を見通した全体的な指導計画を検討する

学年	技術分野	家庭分野
1		
2		
3		

上記の中に各分野の項目を配当する

↓

(2) 各分野の各項目に配当する授業時数及び履修学年について検討し、適切に配当する

〇〇 中学校

学年	分野	1 学期	2 学期	3 学期
1	技術 家庭			
2	技術 家庭			
3	技術 家庭			

上記の中に分野別の内容、授業時数を配当する

↓

(3) 題材を設定する

題材の設定にあたって、別紙「新学習指導要領の改訂の趣旨を生かした内容分析表」を参考にする

【 考え方・留意事項 】

(1) 各分野の配当について
 教科の目標の実現を図る
 各学年の分野の授業時数が異なっても可
 ただし、3 学年間を通していずれかの分野に偏らない配当
 各分野の A B の(1)～(4)はすべての生徒に履修（基礎的・基本的事項）
 (5)(6)の項目は生徒選択が望ましい
 (5)(6)の履修方法は、(1)～(4)の後に選択することも可
 あるいは、(1)～(4)と関連させて履修可

(5)(6)の取扱について

- ・技術分野 = A 内容が大きく異なり工夫が必要 B:(1)～(4)との関連を工夫 題材を多数準備
- ・家庭分野 = A 両方扱ことは無理 (5)は時間数多く B 両方扱える (5)は積極的に扱いたい

↓

(2) 各分野の配当授業時数及び履修学年について
 各項目の指導内容、地域、学校及び生徒の実態に応じて授業時数を定める
 (1)～(4)に配当する授業時数は 70 時間以上確保する
 (5)(6)に配当する授業時数は履修する項目数に応じて適切な授業時数を配当する
 履修学年は地域、学校の実態及び生徒の発達段階や興味・関心、他教科や分野間の関連を考慮する
 各項目については、系統的、発展的な指導を考慮する
 ・項目の関連については、技術分野と家庭分野の関連を図ることも可
 ・授業時数の目安 技術分野 A : B = 1 : 1 家庭分野 A : B = 3 : 2
 ・家庭分野 A (2)は 3 回の実習を位置付ける→配当授業時数の工夫
 ・家庭分野 B は第 2 学年に配当することが妥当（内容改訂の趣旨を考慮すると）

↓

(3) 題材設定について

題材 = 教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を、例えば、生徒の身近な生活を関連させるなど、指導単位にまとめたもの

各項目及び各項目に示す事項が、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されること
 実践的・体験的な学習活動を中心とした題材を設定すること

＜観点＞

- ア) 小学校における指導内容及び他教科との関連を図り、基礎的・基本的な内容を押さえたもので、生徒の個性を生かすことのできるもの
- イ) 生徒の発達段階に応じたもので、興味・関心を生かし、主体的な学習活動が促されるもの
- ウ) 生徒の日常生活とのかかわりを重視したもので、家庭や地域社会における実践に結び付けることができるもの

題材設定に当たっては、生活を総合的に見つめる観点で新たに設定しても可
 従来の題材を見直し、新学習指導要領の趣旨を生かした題材設定を工夫しても可